

あつし塾長の 子のやる気 親の気づき

〇〇九



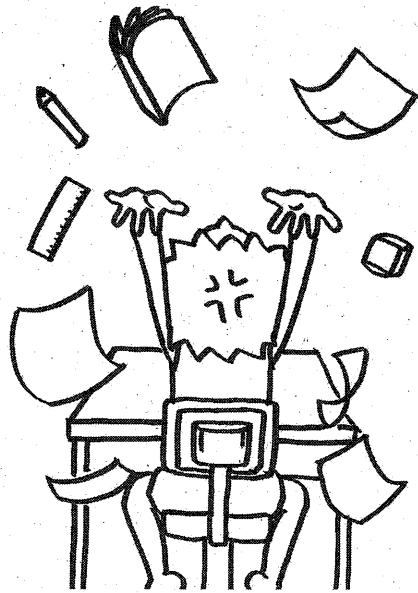
小学校低学年の子どもたちのおしゃべりは、ゆとり教育の今でも明るくて、やんちゃで、本当に楽しいものです。こちらもテンションを上げて「大きくなったら何になる?」とやってみます。すると決まって「はい!はい!」と元気に手を拳

道 標

げ「しゃべらせろ」とアピールしてきます。先日も一番元気の男の子を指名したら、「はい。地球防衛軍!」ときっぱり言っていて誇らしげにほほ笑みました。

親の望む進路伝えたい

「本人に任せる」ではなく



by yoriko

「ん」と話まってしまいます。まるで日々を重ねていけば、ある時突然、「決まるスイッチ」を押す日が来るかのような…。その答え方に私は違和感を覚えます。こちらは、やりたいことは何か、なりたいたいものは何かを答えたいのに、子どもたちは、自分の中に答えが見つからず悩んでしまっています。

その背景には、「子どものやりたいことをやらせたい」とおっしゃるご家庭が増えたことと関係があると考えています。「本人に任せている」「本人のやりたいことを」「最後は本人に決めさせた」等々、子どもを理

解している理想の言葉、実は子どもは、「自分を、子どもの前で親が簡単に口にします。確かに職業の選択は自由であり、子どもたちは「将来の夢」に向かって、高校へ大学へ進路を自由に選択して行くはずですが。

しかし、多くの子どもたちは「自由」の意味や「選択」の仕方、教わる機会に恵まれていないことに親は気づいていないのではないのでしょうか。ゆとり教育が導入され、特に進路選択に関しては学校ではなく、ご家庭の自己選択・自己責任という時代になりました。親が依然として「本人に任せます」と理解を口にするだけでは、子どもは選ぶ術を持っていないでしょう。

（畑山篤志学塾塾長）

分の親がどうしてほしいと考えているのか」「を知らないので。なぜならその考えが自身のルーツであり、将来への道標だからです。

自由と放任を履き違えることなく、親は子どもに、何歳になっても、どんな勉強やどんな職種を選んで欲しいのかを確かに伝えたいものです。親がたとえどんなに何かを願っても、自立心の備わった子どもはきつと自由に羽ばたくはずですよ。

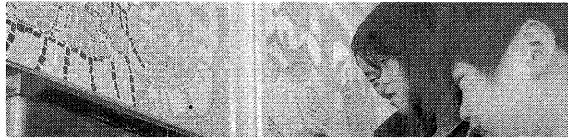
「将来、社会に出て活躍したい」という気持ちは今の子どもたちの中にも逞しく育っています。

油断禁物「新型インフル」

善学てれび一が角百けろキル空いそ

乾 燭
教 宗

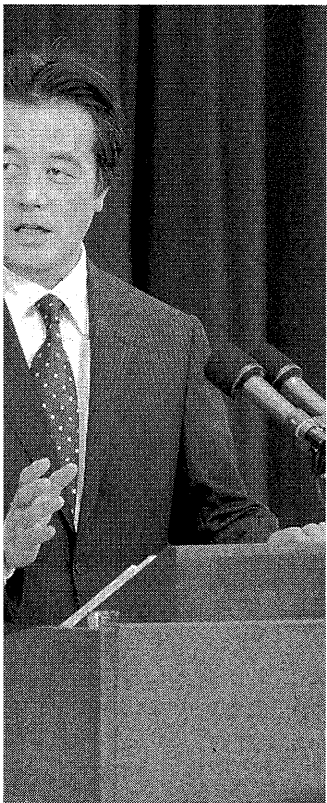
乾燥対策の
金魚に興味
戸川区立臨



教 育

に基地を提供する代わりに、日本が攻撃されたら米軍が守ると取り決めしました。

その後、米軍は、核兵器を積むことができる空母などを日本近海に配備しました。これらの船が



調査報告を受け、記者

ニュース なぜなに